



各 位

2024年1月26日

会 社 名	株式会社	吉野家ホールディングス
代表者名	代表取締役社長	河村 泰貴 (コード番号 9861 東証プライム市場)
問合せ先	常務取締役	小澤 典裕
電 話 番 号		03-5651-8771

## 「サステナビリティ推進委員会」の設置およびマテリアリティ KPI の設定について

当社は、持続可能な社会の実現に向けた取組みの強化を図るため、「サステナビリティ推進委員会」の設置およびマテリアリティ（重要課題）の指標および目標（KPI）の設定を下記のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

当社グループは、2022年2月に吉野家ホールディングスサステナビリティ基本方針を策定し、5つのマテリアリティ（重要課題）を特定しました。このたび、「サステナビリティ推進委員会」の設置による管理機能の強化と2030年度を最終年度としたモニタリング可能なマテリアリティのKPIの設定により、当社グループ全体でサステナビリティの更なる推進に取り組んでまいります。

### 1. 「サステナビリティ推進委員会」の設置

#### 1) 本委員会設置の目的

当社グループは、グループ経営理念『For the People ～すべては人々のために～』を基に、社会のニーズを満たし、人々の幸せに貢献するための存在となるべく、企業活動において環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）の視点を重視し、これまでもサステナブル経営を推進してまいりました。近年、地球環境や社会を取り巻くさまざまな問題が顕在化し、グローバルに事業を展開する当社グループにとって、それらへの対応は重要な経営テーマとなっています。当社グループは、持続可能な社会の実現に向け、サステナビリティの取組みを全社的に検討・推進する組織として「サステナビリティ推進委員会」を設置することとしました。

#### 2) 本委員会の役割

「サステナビリティ推進委員会」では、サステナビリティに関わる全社方針や目標の策定、マテリアリティの進捗状況のモニタリングを通じ、グループ全体におけるサステナビリティ推進状況およびKPIの進捗状況を定期的に取り締役会へ報告します。

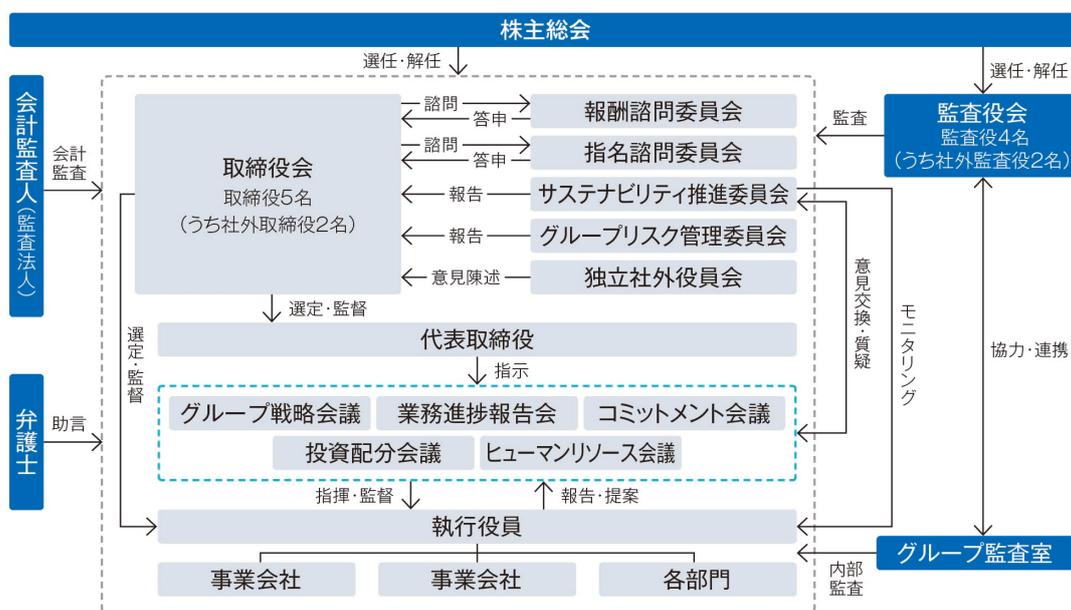
### 3) 本委員会の構成

「サステナビリティ推進委員会」は、代表取締役社長を委員長とし取締役、執行役員および担当部門長によって構成されます。

### 4) 設置日

2024年3月1日

＜コーポレートガバナンス体制図＞



## 2. マテリアリティ KPI の設定

当社グループは、2022年2月に特定した5つのマテリアリティを特定した後、取締役およびグループ役員・部門長を交え、継続的にマテリアリティに関する議論・検討を行ってまいりました。このたび、マテリアリティ KPI を設定したことで取組みを強化し、2030年をゴールとするSDGs（持続的な開発目標）の達成の一助となれればと考えています。

<当社グループの5つのマテリアリティと KPI>

マテリアリティ	課題解決の方向性 (基本方針)	吉野家ホールディングスグループ の主な取り組み	KPIの設定	2030年度 目標	2022年度 実績	SDGsへの 貢献
ダイバーシティ& インクルージョンを実現し 「ひと」の成長と活躍を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンの実践</li> <li>ライフワークバランスの推進</li> <li>人材育成・キャリア支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な働き方の尊重・推進</li> <li>職場環境の向上</li> <li>人事評価制度の見直し</li> </ul>	女性社員比率 女性管理職比率 有給休暇取得率 従業員エンゲージメントの向上 <sup>*1</sup>	30.0% 30.0% 80.0% 2.5点	20.5% 9.6% 59.3% 3.0点	
より多くのお客様に 「食」の楽しさと健康を提供し、 豊かな暮らしを実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客の健康への貢献</li> <li>食を提供する従業員に対し健康への貢献</li> <li>高齢化社会への対応</li> <li>新技術・新素材の応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健用食品の販売</li> <li>ケア食品の拡販・商品開発</li> </ul>	健康診断受診率 トク牛、ケア牛の年間販売数 <sup>*2</sup> 健康的な食生活に貢献する商品の提供	100% 10万食 —	89% 8万食 —	
グローバルビジネスの 展開による 地域社会の発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食」のインフラとしての機能強化</li> <li>地域社会とのつながり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども食堂への食事支援</li> <li>吉野家の缶飯技術による非常食の開発・提供</li> <li>オレンジドリーム号による被災地支援</li> </ul>	「店舗の地域貢献活動」 の拡大 (子ども食堂など食の提供)	全都道府県 にネットワーク を構築	23/47 都道府県 788回 (44,813食)	
お取引先様との共創による 持続可能な サプライチェーンの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>食の安全の確保</li> <li>サプライチェーンの健全性確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>購買先工場監査体制の構築</li> <li>環境負荷を考慮した資材の購入</li> </ul>	サプライヤー監査 (環境や人権に配慮した サプライチェーン構築)	100%	81%	
環境に配慮した 事業活動による 気候変動対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗・工場製造過程での食材ロス削減、再利用</li> <li>包材の環境負荷低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗・工場におけるロスの削減、再利用</li> <li>産業廃棄物(廃油・廃材)の再利用</li> <li>設備機器のリユース</li> </ul>	国内工場から排出する 廃棄物の再生利用 <sup>*3</sup> 特定プラスチックの削減 (2020年対比50%) エコレストランの継続認定 <sup>*4</sup>	57% 24.15kg /億円 認定継続	52% 32.50kg /億円 2017年認定	

※1 企業の風通しを外部機関に依頼し計測しています。目標値の2.5点は従業員の半数が組織や仕事に対して負担感が少なく主体的に取り組んでいる心理状態を示しています。  
 ※2 トク牛は国の審査を得て販売している特定保健用食品です。ケア牛は咀嚼・嚥下機能が低下した方向向けの介護食品です。  
 ※3 吉野家ホールディングスグループ国内7工場の再利用率です。  
 ※4 吉野家は2017年公益財団法人日本環境協会から環境にやさしい「飲食店」を認定するエコマークを付与され「エコレSTRAN」の認定を受けました。

以上